

# その日その時をベストに生きる!



教育学部小学校教員養成課程(現総合科学部) 平成元年卒業  
四国放送株式会社 報道制作局報道部

井上 彰夫 いのうえ あきお



## 報道デスクとして活躍

「フォーカス徳島」や「徳島新聞」ユースなど四国放送のユース番組で、

「ニュースソースの選択や原稿チェックなどを行う報道デスクとして活躍する井上彰夫さん。徳大では総合科学部に変わる前の教育学部で、学校の

先生を目指して学んでいました。「大学生生活はサークル活動を中心に家庭教師のアルバイトなどをやっていた」と語る井上さんは、小さい頃から書道を習っており、もちろんサークルも書道部。今でも県展などの公募展に出品しているほどです。将来は国語の先生を希望していました。

当然教員採用試験も受けましたが、

ある日偶然町で出会うた先輩に四国放送を勧められました。小さい頃からテレビの子でもあり、幅広い世界で働けるマスメディアの仕事にも魅力を感じたからです。しかしながら、この業界の採用は公務員よりも狭き門。「受かってラッキーだったと思います。何かにチャレンジするつもりでこの世界に飛び込みました」

四国放送ではアナウンサー以外はどのような仕事に就くかわからないのですが、井上さんが配属されたのは報道部。常に社会や時代の最新の出来事を伝える重要な部門です。ここで7年。そして「おはようこけい」の番組制作に5年間関わり、制作サイドの苦労や重要性も学びました。

再び報道部に戻り今年で5年。現在は報道デスクとして、刻々と集まってくるニュースを選択したり、原稿のチェックなどを行っています。

## あらゆるものが自分の糧に!

報道デスクのもとには24時間、イベントや事件、事故様々なニュースが飛び込んできます。それらを瞬時に取捨選択して、的確な情報を視聴者に伝えていく仕事は、雑誌で言えば編集長のような存在です。

「普段の生活の中でも、散歩していても、町や人の変化に敏感になっていきますね。また色んな人と会ったり話すことが刺激になったり勉強になります」という井上さんは、その日その日をベストに生きて、モアベターの積み重ねの結果とする、というのがモットー。

「学生の間には、勉強でも部活でも何でもチャレンジしてほしいですね。忙しくても苦しくても、その方が自分を磨ける。失敗しても学生の間はリスクも少ないので、しっかり前向きに、自分の道を求めていくください。大学の中だけではなく、ボランティアなどを通じて社会との関わりをもつのも将来のために必ず役に立ちます」とメッセージをくださいました。

この号が発行される頃には配属が変わっているかもしれませんが、そのままだもしれません。いずれにせよ、与えられた立場で黙々とベストを尽くすことこそが大切。